

令和4年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人札幌市芸術文化財団	
施 設 名	札幌芸術の森	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	25,109	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	16,346	(千円)
普 及 啓 発 事 業	8,763	(千円)

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	札幌芸術の森バレエセミナー※	令和4年8月3日～ 令和4年8月7日	参加者：初級クラス30名、中級ジュニアクラス31名、中級シニアクラス18名、上級クラス13名	目標値	100名
		札幌芸術の森	講師：高岸直樹（東京バレエ団 元プリンシパル、高岸直樹ダンスアトリエ主宰）、加治屋 百合子（ヒューстон・バレエ プリンシパル）、川島麻実子（東京バレエ団 元プリンシパル）、森優貴（振付家/ダンサー）、宮内真理子（コロラドバレエ団/新国立劇場バレエ団元プリンシパルダンサー、GYROKINESIS®認定マスタートレーナー）	実績値	92名
2	札幌ジュニアジャズスクール	令和4年4月～ 令和5年3月	参加者：小学生クラス18名、中学生クラス19名（オーディションにより選出）	目標値	受講者数 50人、入場者数 5,200人
		札幌芸術の森、 札幌文化芸術劇場 hitaru 他	講師：中嶋和哉（プロジャズトランペット奏者）、蛇池雅人（プロジャズサクソ奏者）	実績値	受講者数 37人、入場者数 20,991人

3	ユースジャムセッション ※	令和4年4月～ 令和5年2月	<p>&lt;本公演セッションⅠ&gt;          芸術監督：タイガー大越(バー          クリー音楽大学教授)          主任講師：田中充(トランペット奏          者)、橋爪亮督(サクソス奏者)          ミュージックアシスタント：中嶋和          哉(札幌ジャズアンビシャスメンバ          ー、札幌ジュニアジャズスクール講          師)、蛇池雅人(札幌ジャズアンビシ          ャスメンバー、札幌ジュニアジャズ          スクール講師)、菅原昇司(札幌ジャ          ズアンビシャスメンバー)、小野健悟          (札幌ジャズアンビシャスメンバ          ー)、柳真也(札幌ジャズアンビシャ          スメンバー)、瀧村正樹(札幌ジャズ          アンビシャスメンバー)          ジャズコーラス講師：箭原顕(音楽          プロデューサー、ハウスオブジャズ          主宰)          参加者：札幌ジュニアジャズスクー          ル中学生クラス、SAPPORO CITY JAZZ          VOICES、ユーススペシャルバンドメ          ンバー</p> <p>&lt;本公演セッションⅡ&gt;          音楽監督：デビッド・マシューズ          講師・共演：札幌ジャズアンビシャ          スメンバー</p>	目標値	入場者数 600人・ 参加者数 130人
		札幌芸術の森、 札幌コンサートホール Kitara 他	<p>演奏会司会：喜瀬ひろし          参加者：札幌ジュニアジャズスクー          ル中学生クラス、SAPPORO CITY JAZZ          VOICES、ユーススペシャルバンドメ          ンバー</p> <p>&lt;本公演セッションⅢ&gt;          参加者：札幌ジュニアジャズスクー          ル、ノルウェーオスロインプロバー          スン</p>	実績値	入場者数 740人・ 参加者数 118人

4	パークジャズライブコンテスト※	令和4年7月18日	<p>出演バンド：MKG（東京都）、sqidoo（東京都）、Melange（北海道）、銀ノ揺らぎ（北海道）、Don Kururi（神奈川県）、Abucon（北海道）、Wander Around（北海道）、K's relations（北海道）、Frienvals（埼玉県）、Chaotic Trio（北海道）</p> <p>優勝バンド：Don Kururi（神奈川県）</p> <p>MC：タック・ハーシー（ラジオパーソナリティー）</p> <p>審査員：加瀬谷純二（株式会社エフエムノースウェーブ 常務取締役）、小林栄（株式会社ブルーノートジャパン 取締役）、高橋教太（株式会社エフエム北海道特別推進プロジェクト担当局長）、三森隆文（株式会社ジャズジャパン 代表取締役）、宮越陽一（株式会社宮越屋珈琲 代表取締役）</p>	目標値	参加者 100バンド、来場者 300人
		札幌芸術の森		実績値	参加者 31 バンド、来場者 323人
5	ジャズセーバーズ※	令和4年7月16日～ 12月7日他	<p>活動事業：パークジャズライブ、パークジャズライブコンテスト、サッポロ・サウンド・スクエア、札幌時計LIVE2023×SAPPORO CITY JAZZ</p> <p>ボランティア講師： （夏）撮影：相坂 紀子（株式会社マークスタジオ）、運営：青山夕香（株式会社青山プロダクション）</p>	目標値	ボランティア登録者：120人 活動延べ人数：450人
		札幌市民交流プラザ他		実績値	ボランティア登録者：171人 活動延べ人数：472人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	パークジャズライブ※	令和4年7月16日、 7月17日	出演：公募によるプロ・アマチュアミュージシャン (全国から204組、1,111名)	目標値	入場者： 70,000人、参加者：演奏参加者 1,000人
		大通公園 2丁目他		実績値	入場者： 21,429人、参加者：演奏参加者 204組 1,111名
2	創成 EAST まちづくりジャズフェス	①令和4年7月16日、 7月17日 ②令和4年10月1日、 10月2日	①出演：公募によるプロ・アマチュアミュージシャン ②出演：10/1(土) 中の島小学校 BECON、北ガススペシャルバンド、HONEY BEE、須山恭一 Quartet、札幌ジャズアンビシャス 10/2(日) 札幌ジュニアジャズスクール Club SJF、Hiro ABE Trad Jazz、Masato Jaike BAND、金澤 緋彩 Project、Solid Sounds Jazz Orchestra	目標値	2,600人
		①札幌ファクトリー他 ②北海道ガス東側屋外スペース		実績値	4,438人
3	北海道ジャズの種プロジェクト	令和4年4月～ 令和5年3月	参加：札幌ジュニアジャズスクール、砂川キッズジャズスクール、まくべつジュニア・ジャズスクール、Mt. ようてい・ジュニア・ジャズスクール、広尾サンタランド・ジャズスクール	目標値	参加者数 140人
		札幌芸術の森他		実績値	参加者数 84人
4	デイトタイム親子ジャズ※	(中止)		目標値	93名
		札幌市民交流プラザ		実績値	—

5	ユニバーサルジャズライブ	令和4年12月3日	出演：ジュエリーアイス LOVERS 野瀬栄進、蛇池雅人、飛澤良一、豊田健、大山淳、MIZUHO、箭原顕 トークゲスト：写真愛好家 浦島久 MC：タック・ハーシー	目標値	93人
		札幌市民交流プラザ		実績値	185人
6	ランチタイムコンサート ※	令和4年12月4日	出演：齋藤桃子、古舘堅治、按田佳央理	目標値	200人
		札幌市民交流プラザ		実績値	80人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

北海道の経済・文化の中心地である札幌市は、街に文化芸術が浸透し、多様で創造的な活動により人々の交流が創出されることを目的とした「創造都市さっぽろ宣言」を行い、都市戦略として創造都市の推進に取り組んでいる。札幌芸術の森は、「創造都市さっぽろ」における自然と共存する総合芸術施設として、鑑賞（発表）・制作・練習の機能を有し、「美術」「工芸」「舞台芸術」の各部門で事業を展開している。①札幌芸術の森の特性を生かした魅力ある多彩な事業の実施、②芸術を担う人材育成と芸術を通じた人づくり、③自然と調和した事業展開と場づくり、④人と人が出会い、つながる交流の場としての機能の充実の4つを基本方針に掲げ、令和4年度は、この方針に基づき次の事業を組み立て、概ね当初の予定通りに推進することができた。

【人材養成事業】若手の人材養成を目的として、恵まれた施設を活用し、札幌芸術の森バレエセミナー（事業番号1）、札幌ジュニアジャズスクール（事業番号2）、ユースジャムセッション（事業番号3）を実施した。日本を代表するトップバレエダンサーや、世界的な指導者、ミュージシャンから直接指導を受けることのできる機会を創出し、次世代育成への取り組みを行った。パークジャズライブコンテスト（事業番号4）では、気鋭のミュージシャンの発掘と実力バンドの飛躍の機会を創出し、次代を担う人材の支援を行った。また、市民ボランティア・ジャズセーバーズ（事業番号5）を組織しイベントの参画を行うことで、地域の芸術文化を担う人材を育成するとともに地域の活性化に繋がった。

【普及啓発事業】パークジャズライブ（事業番号1）は全国からプロ・アマが集結し、市内10カ所を会場に演奏を繰り広げ、創成 EAST まちづくりジャズフェス（事業番号2）では、再開発が進むエリアを会場とし、市内各所に賑わいを創出した。北海道ジャズの種プロジェクト（事業番号3）は、道内4地域との連携・交流と各地域でのジャズスクール活動で地域活性化に貢献した。世代・障がいの有無によらず、誰もが気軽にジャズを楽しめる機会として、ユニバーサルジャズライブ（事業番号5）、ランチタイムコンサート（事業番号6）を実施した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

【文化的意義】32回目を迎えた札幌芸術の森バレエセミナーは、国内外で活躍するトップレベルの日本人講師陣を招聘することにより、市内だけでなく道内遠方地域及び道外（大阪府、福岡県等）から受講生が参加し、世界水準のセミナーとして実施した。レッスンは広く公開し、指導者及びバレエ愛好家等の学びと見識を高める機会とした。ユースジャムセッションでは、現代音楽における世界最高峰の教育機関アメリカ・パークリー音楽大学から教授のタイガー大越を招聘し、中・高校生の演奏レベルと意欲の向上に大きく貢献した。

【社会的意義】市民参加型のパークジャズライブでは、出演者として市民がバンドを結成して参加し、さらに参加者同士のバンドの交流にも発展している。また、パークジャズライブをはじめとするジャズイベントを支えるジャズセーバーズでは、10代から80代まで幅広い年代が活躍しており、世代を超えた交流が生まれ、地域コミュニティの活性化、ひいては市民が誇れる心豊かな地域づくりに繋がっている。

【経済的意義】北海道ジャズの種プロジェクトでは、道内4地域（羊蹄山麓の自治体、砂川市、広尾町、幕別町）でジャズスクールの活動を展開し、各地域のお祭り等（なかそらち大収穫祭、広尾サンタランド点灯式等）に参加するなど子どもたちの活動により、地域経済の活性化を促進している。また、創成 EAST まちづくりジャズフェスは、地元企業とのタイアップにより、新幹線乗り入れエリアでの新たな街づくりの一助となっており、次年度の継続開催が予定されている。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【人材養成事業】

目標：指導体制などの問題もあり、受け入れ人数や活動回数の拡大には限界があるものの、一定の規模を維持する

指標：札幌芸術の森バレエセミナー（事業番号1）、札幌ジュニアジャズスクール（事業番号2）、ユースジャムセッション（事業番号3）、パークジャズライブコンテスト（事業番号4）、ジャズサーバーズ（事業番号5）の①参加人数及び②活動回数

実績：事業番号1 ①参加人数 92人（対目標92%）、②活動回数 5日間（対目標100%）  
事業番号2 ①参加人数 37人（対目標74%）、②活動回数 94日間（対目標103%）  
事業番号3 ①参加人数 118人（対目標90%）、②活動回数 35日間（対目標81%）  
事業番号4 ①参加組数 31組（対目標31%）  
事業番号5 ①参加人数 171人（対目標142%）、②活動回数 32回（対目標56%）

自己評価：概ね目標値を達成し、目的に沿った規模を維持し、魅力ある事業の展開を行うことができた。

①参加人数のうち、パークジャズライブコンテストは、新型コロナウイルスのため過去2年間ライブイベントが実施できず、映像及び音源についても著作権の問題により配信することができなかつたため、事業PRの訴求効果が薄く、目標応募数に近づけることができなかった。

②活動回数については、新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、概ね2019年度と同水準まで回復を図ることができた。

#### 【普及啓発事業】

目標①：パークジャズライブ（事業番号1）、北海道ジャズの種プロジェクト（事業番号3）、ユニバーサルライブ（事業番号5）、ランチタイムコンサート（事業番号6）の来場者数を増加させる（前回対比2%増）

目標②：パークジャズライブ（事業番号1）の参加者数を増加させる

指標：来場者数、参加者数

実績：事業番号1 来場者数 21,429人（対目標30%）、参加者数 204組（対目標102%）  
事業番号3 来場者数 10,130人（対目標3376%）  
事業番号5 来場者数 185人（対目標198%）  
事業番号6 来場者数 80人（対目標40%）

自己評価：来場者数については、新型コロナウイルス感染防止対策として、実施回数を減らしたり、会場により入場者数の制限を設けたこと等により、目標値を下回る結果となる事業（事業番号1,6）があった。特に、パークジャズライブでは、入場者数を例年の半数としたことに加え、開催日のうち1日が終日雨となったことにより、屋外会場を中心に大きく入場数が減となった。しかし一方で歴史的建造物の旧永山邸を会場とするなど文化施設の活用により、創成東の地域では新たな賑わいを創出することができた。北海道ジャズの種プロジェクトでは、各地域でのジャズスクール活動の再開により、ジャズ音楽を地域住民へ広く普及することができた。また、ランチタイムコンサートは、安全を考慮し、1日の開催で80人を定員数としたが、テーマ性のある魅力的なコンサートを企画し観客の満足度を高め、音楽愛好者のすそ野を効果的に広げることができた。



### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間については、各事業の参加者や観客のニーズに合わせて設定した。夏季の7-8月は本州に比べ湿度や気温が過ごしやすい北海道の気候を活かし、パークジャズライブ((普)事業番号1)では大通公園や札幌駅広場、またユースジャムセッション((普)事業番号3)では試演会を芸術の森野外ステージで開催するなど、屋外会場でライブを開催した。また、学生が参加しやすいようワークショップを夏休みの土日に設定するとともに、平日には中学・高校の部活動へのアウトリーチを行うなど、指導者のスケジュールを有効に活用した。バレエセミナー((人)普及番号1)は全国から小・中・高校生を募集するため、夏休み期間に合わせて設定し十分な参加人数を確保した。冬季は降雪でも気軽に鑑賞できるよう、市内中心部で地下鉄に直結し、交通の便が良い札幌文化芸術劇場 hitaru でのユニバーサルライブ((普)事業番号5)やランチタイムコンサート((普)事業番号6)を開催した。札幌ジュニアジャズスクール((人)事業番号2)は新型コロナウイルス感染症の状況をみながら計画的に年間カリキュラムを組み、毎週末の練習に加え、市内外との交流事業やライブなどを実現できたことにより、子どもたちの精神的・技術的な成長に大いに貢献することができた。年間を通し、各事業の実施時期を調整し職員の長時間労働の抑制にも努めている。助成対象事業全般において、ほぼ当初の計画どおりに進めることができたが、((普)事業番号4)デイトム親子ジャズは幼児を含む未就学児を対象とすることから、新型コロナウイルスの影響を鑑み中止とした。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【人材育成事業】

当初予算と比較して決算では費用が大きく抑えられる形となった。大きな要因として新型コロナウイルス感染症対策にかかる費用やアルバイト、舞台費用等の削減が挙げられる。

【事業番号1】バレエセミナーの受講料収入については受講者が予定数90名を上回る92名が参加したことに加え、見学者は新型コロナウイルス感染症対策のため、当初1日あたりの定員数を40名と計画していたが、見学希望者のニーズに対応するため会場内の仕様・導線の工夫を行い60名に増やし、当初予定を大幅に上回る増収となった。またアルバイト委託内容の見直しにより費用を縮減した。また、当初予算では計上した費用のうち次年度の開催にかかる広報費用等については対象外経費となった。

【事業番号2】札幌ジュニアジャズスクールは初めて音楽専用ホールが会場となったこと等によりライブ舞台費を圧縮し、収支が大きく改善した。

【事業番号3】ユースジャムセッションでは海外から招聘した芸術監督の新型コロナウイルス感染症対策のための滞在費等を見込んでいたがかからず、経費減となった。

【事業番号5】ジャズセーバーズでは、ボランティア研修会で、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部を講師による対面形式から一部を収録動画による配信に変更し、経費を圧縮した。また、当初予算では次年度の開催にかかる広報費用を計上していたが、対象外経費となった。

#### 【普及啓発事業】

パークジャズライブに関しては下記の理由から予算より差額が出たものの、事業全体を通して概ね計画通りに進めることができた。

【事業番号1】パークジャズライブについては参加費を500円値上げして増収したほか、舞台仕様の見直しにより、経費の圧縮に繋がった。

【事業番号4】幼児を含む未就学児を対象とすることから、新型コロナウイルスの影響を鑑み中止とした。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

札幌芸術の森がこれまでの事業で積み上げた文化拠点としてのネットワークと人的資源である地域のキーパーソンや関係・協力者、提携団体、また施設が有する機能を最大限に活かし、事業の創造性を高め信頼性のある事業を展開した。

#### (1)【バレエ、ジャズ育成事業に世界的な講師陣を招聘】

・バレエセミナー／32 回目、3 年ぶりの開催となったバレエセミナーでは、2016 年から主任講師を務める現・パリオペラ座芸術監督のジョゼ・マルティネス氏から信頼を受ける東京バレエ団元プリンシパルの高岸直樹氏をはじめ、アメリカ・ヒューストンバレエ プリンシパル加治屋百合子氏、ドイツ・レーゲンスブルグ歌劇場で芸術監督を務めた振付家の森優貴氏など、国内外の第一線で活躍する日本人トップダンサーや指導者を招聘。定員の 9 割を超えて集った受講者、関係者から高い評価を得た。

・ユースジャムセッション／ユース世代の音楽交流創造事業の 3 年間のプロジェクトの最終年。前年度にリモート参加であった芸術監督タイガー大越氏（アメリカ・バークリー音楽大学）を招聘し、講師に東京からプロミュージシャン田中充氏、橋爪亮督氏を迎え、全国に個人参加を募り、大阪、東京からも含め 41 名が参加。対面でのセッションやレクチャーなどのワークショップ、成果発表に加え、会期中にタイガー氏の音楽と指導に触れられるアウトリーチを市内外で実施。高いレベルで若者の能力を引き出し、特に優秀な学生にはバークリー音大への夏期セミナーに学費免除で参加できる賞を授与するなど、レベルアップの道を広げた。

#### (2)【企画・プログラム制作における地域人材、団体との協力】

・パークジャズライブコンテスト／審査員を地元ラジオ局の(株)エフエム北海道、(株)エフエムノースウエーブ、(株)ブルーノート東京、(株)ジャズジャパンの役員などに依頼。コンテスト出場者の動機付けと事業の信頼性を高めている。

・パークジャズライブ／札幌市内外、道外からの 200 組のバンドを 2 日間 10 会場に配するプログラム調整作業を北海道内のアマチュアジャズに精通する山口克己氏（ジャストプランニング主宰）に委託。掛け持ち等の調整や会場ごとに特色を出したプログラム調整に力を借り、円滑な運営に繋げている。

・バレエセミナー／セミナーのカリキュラム作成、各講師との調整、セミナー会場での運営を担当するコーディネーター業務をバレエ事業に精通する外部スタッフに委託（(有)ニケステージワークス山貫氏）。3 年ぶりのセミナー再開で現場が初めてのスタッフも多かったが、スムーズかつ安定的に制作・運営を行うことができ、講師・受講生の満足度を上げることができた。

・ユースジャムセッション／プログラムに通年でのジャズコーラスワークショップを企画し、指導を地元でボイストレーナーとして活躍する箭原顕氏（house of Jazz 主宰）に依頼。ユースを対象にジャズコーラスに取り組んだ。また、ユースジャムセッション全体のカリキュラムや講師の調整業務は、過去に若手セミナー事業の制作実績のあるジャストプランニングに委託、これまでのノウハウを活かし、協力体制のもとで実施することができた。さらに、冬に実施した最後の成果発表では、夏にサポートメンバーとして講師側に加わった地元プロミュージシャンによるビッグバンド「札幌ジャズアンビシャス」が音楽監督デビッド・マッシューズのもと、ユースメンバーのセッションを披露し、好評を得た。札幌ジャズアンビシャスは 3 年前から当事業でユースとの音楽交流を続けており、メンバーが札幌ジュニアジャズスクールや地方のジャズスクール講師を務めるなど、次世代育成にも力を発揮している。

#### (3)【施設を最大に生かしたる創造事業の充実】

・札幌ジュニアジャズスクール、バレエセミナー、ユースジャムセッション、コンテスト等各事業の会場に札幌芸術の森アートホールを最大限に活用。大中小 10 の練習室を駆使し毎週末のスクール練習やセミナーでの複数コースの展開、見学スペース設置による公開レッスンなど、プログラムの充実に繋げた。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

- (1) 北海道・札幌でトップレベルでのバレエセミナーとジャズ若手育成事業を継続。受講生の能力を伸ばし、バレエ、ジャズへの探求や向上への動機付けに成果をあげるとともに、地域の指導者等ともプログラムとの関わりを通して事業への理解と協力を得、将来に向け、地域の文化芸術の発展に繋がる実績を重ねることができた。
- ・再開したバレエセミナーの取材記事が北海道新聞に受講者インタビューとともに紹介された。
  - ・参加者アンケートでは「普段体験することのできないプロの方達からのレッスンを5日間続けて何クラスも受けることができ、刺激的でとても楽しかった（受講者）」「5日間で非常に成長する姿が見られた。すばらしい講師の先生方に、この年齢で教えていただける機会を与えていただき、とても感謝している。来年もぜひ参加したい。（保護者）」などの評価をいただいている。
  - ・札幌ジュニアジャズスクール卒業生で、アニメ映画の劇中音楽を担当するなどプロとして活躍する石若駿氏、馬場智章氏がユースジャムセッションにて受講生と交流を行い、後輩の憧れと目標の存在となっている。
  - ・ユースジャムセッションの期間中に行った「アウトリーチ」では、コロナにより学校単位で札幌での交流が叶わなかった札幌市内の高校や室蘭市の中学校ジャズ部をタイガー大越氏が訪問。貴重な機会と大歓迎を受け、指導教諭以外の音楽教諭も駆けつけ、生徒も熱心にノートをとるなど、真摯な学びの姿勢があった。ユースジャムとアウトリーチの所感と手ごたえについて、タイガー氏が帰国後に『輝く瞳』と題して自身の寄稿に記している。（芸術音楽情報誌 『ART'S 78』）
- (2) ステップアップのための機会を次世代アーティストに与え、文化芸術の将来への発展に繋げた。
- ・ユースジャムセッション「パークリーアワード」/芸術監督タイガー大越氏が優秀な受講生を選び、パークリー音楽大学のサマースクールを無料で受講できる賞を2名に授与（札幌在住、高校2年と中学3年）
  - ・バレエセミナー「研修アワード」/主任講師高岸氏が東京バレエ団での研修に2名に授与（道内在住、高校2年）。（令和5年度募集パンフレットに体験レポートを掲載）
  - ・パークジャズライブコンテスト優勝バンド「Don Kururi」（神奈川県）への海外ジャズフェスへの参加権利授与。また、コンテスト参加全10バンド（市内6、道外4）について、ジャズ専門誌「JAZZ JAPAN Vol.146」に評を審査員長（三森氏）の文により掲載。
- (3) プロとユースのビッグバンド共演で育成事業成果を披露、双方の活動に対し観客から評価を得た。
- ユースジャムセッションの成果発表としてプロのミュージシャンと若者がビッグバンドでセッションを繰り広げ、大人と若者の音楽が相互に影響を与え合い、音楽表現として高みにつながる可能性を示した。観客のアンケートにも、「ユースメンバーの演奏も大人たちに劣らずで感激した。ジャズアンビシャスの活動や、若い人たちに経験・活躍の機会が与えられるような、札幌をジャズで盛り上げるための一体となった取り組みにとっても共感した。」（来場者）等の感想をいただいた。
- (4) 人と街を活性化させる地元のミュージシャン、子ども達による音楽活動・イベントの展開
- ・パークジャズライブは3年ぶりの対面ライブ開催で多くのバンドと観客が待ち望んでおり、地元北海道新聞でも大きく記事が掲載され、札幌の夏の風物詩としても市民にも定評を得ている。このイベントを中心に、通年でのジャズイベントを約170名のボランティア「セーバーズ」が力強く支えた。
  - ・創成EastJazzでは、再開発の進むエリアでまちづくりの一環としてジャズライブを実施し、地元ミュージシャンを起用し、無料で市民に紹介する機会ともなった。（北海道新聞さっぽろ10区10月28日号）
  - ・ジャズスクールでは、「ジャズの種プロジェクト」で、3年ぶりに合宿・札幌での合同演奏会で道内5地域のスクールが交流を行った。（観客からの新聞への投稿記事）。各地でのスクールの音楽活動は6年～9年に及び、地域を元気づける大きな力となっている。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### (1) 事業の運営

札幌芸術の森では、下記のPDCAサイクルによって事業内容の改善を行い、持続的な発展を伴った事業運営を行っている。

- (ア) 【計画/Plan】人材育成事業や普及啓発事業について、ミッションや地域の特性等に基づき予算策定や開催時期等の計画を行う。
- (イ) 【実行/Do】職員の経験や適性を考慮した上で主担当・副担当を配置し、適宜上司が指示とチェックを行う。必要に応じてコーディネーター等の専門家の協力を得ながら計画を実行する。
- (ウ) 【検証/Check】事業実施後に担当者や関係者により反省・改善点について打ち合わせを行う。項目別に集計したアンケートによる参加者、観客の意見や評価と合わせて共有し、改善方法を検討する。
- (エ) 【改善/Action】検証により考案した改善方法を次回の事業計画に反映する。次年度予算規模に即し、事業内容の見直しを行う。

#### (2) 経営戦略

札幌ジュニアジャズスクールやパークジャズライブコンテストでは活動資金として企業からの協賛金を調達しており、長年継続して協賛いただいている企業も多く、協賛企業名を冠した演奏活動や、相互的な広報協力、セミナー講師としての招聘などを通して企業のCSR活動を展開し、支援者に活動の意義を理解いただくとともに、関係性を深めることで持続的な活動につなげている。また、今期のユースジャムセッションのような海外交流事業においては継続的に交流を行っているノルウェーのインプロバースンはじめ、各国大使館や在札幌領事館、各国交流協会との情報交換を継続し補助金等、活動資金の情報収集にも活用している。

#### (3) 人事戦略

ライブやワークショップの企画や、予算の検討、財源獲得のための協賛営業、ライブ等のチケット販売、現場管理等、事業に必要な一連の業務を、経験や適性に応じながらスタッフに担当させることで、事業運営のノウハウを蓄積している。また、必要に応じて専門的な知識を有する外部のコーディネーターと企画運営を行い、より高度なスキルアップを図り、継続的な事業運営に役立てている。

#### (4) ネットワークの構築等

バレエセミナーにおいて2016年より主任講師を務めるジョゼ・マルティネズ氏をはじめ、北海道グループキャンプから引き継ぐユースジャムセッションの芸術監督タイガー大越氏のほか、ジュニアジャズスクールにおける石若駿氏や馬場智章氏らを代表とするOB、OG、また過去のパークジャズライブコンテストの受賞者等と事業を継続的に開催することでネットワークを構築して情報交換を行いながら、当財団の主催する事業におけるワークショップやライブへの講師や出演者等としても参加をいただいている。また、地元のバレエスクールである札幌舞踊会代表の千田雅子氏や、ハウス・オブ・ジャズ代表のプロボーカリスト箭原顕氏などに加え、専門的な知識を持つコーディネーター陣による地元キーパーソンにも協力をいただくほか、札幌市、羊蹄山麓地域、広尾町、幕別町、砂川市北海道5地域のジャズスクールが開催する北海道ジャズの種プロジェクトの活動においては各地での定期的な合宿や合同演奏会を開催するなど、道内の外部組織との連携や交流を行っている。

また、当財団が指定管理者として運営する札幌文化芸術劇場 hitaru や札幌コンサートホール kitara、札幌市教育文化会館等の他事業部と連携して音楽ホール等での発表の場を確保するとともに、アーティストや講師の招聘、広報活動等の情報交換を相互で行い、事業の持続発展を図っている。